

狭山にゆかりのある文化人紹介 その3

たぐち やすあき
田口保明

国学者・教育者

1804(文化元年)～1892(明治25年) 88歳没

1. 経歴・狭山市とのかかわり

北入曾式番地に名主田口清八の二男として生まれ、善八と名付けられた。幼少から読書を好み、若くして江戸に出、塙保己一の塾に入る。善八は門人たちの中でも優秀な成績を残したことから、保己一の「保」の一字を貰い、保明と名を改めた。北入曾に戻った保明は寺子屋を開き、村人から「お師匠さん」と呼ばれ、尊敬され慕われた。入曾の教育にも貢献した保名は、明治25年、88歳の長寿を全うして世を去った。



田口家の庭に建つ石碑（明治28年）

2. 主な業績

① 国学者

日本を代表する国学者塙保己一のもとで懸命な努力を重ね、塙門下七人衆の一人に数えられるに至った。田口保明は狭山市が生んだ偉大な学者と言える。

主な著書は、『言葉のしるべ』『皇朝治乱』『源氏物語評釈』『百人一首注釈』などである。

② 教育者

保明がいつ頃北入曾に戻ったのか記録は残っていないが、今からおよそ160年前、保明とその子竹友は三間×五間の離れ座敷を作り、名主の仕事の傍ら国学の塾を開いた。保明は、姿勢のいい静かなお師匠さんだったと伝えられている。この塾が、学制発布後の公立入曾学校へと発展していった。

3. 特筆

① 著作の発見

当時、入曾公民館長だった広沢謙一氏の尽力により、昭和51年1月、田口家の土蔵から著作が発見された。現存する和綴じ、筆書きの本は、『源氏物語評釈』2冊、『治乱私記』、『言葉のしるべ』27冊のみである。



② 入曾囃子

野々宮神社の秋季大祭前日に行われる狭山市指定文化財「入曾囃子」は、江戸時代の文政年間に田口保明が中心となり、江戸の徳丸(現在の板橋)の芸人から伝授されたのが始まりとされている。